

令和7年度 津山市立図書館協議会 会議録

日時：令和7年8月26日（火）

午後2時～3時30分

会場：津山市立図書館集会室

出席委員 尾島会長 横谷副会長 内田委員 竹内委員 福田委員 飯田委員 中塚委員
河原委員 井上委員 影山委員 神田委員 仲矢委員 小谷委員
事務局 河野部長 平井課長 菊入館長 大林副館長 平尾副館長

1. 開会

2. 部長挨拶

図書館協議会は津山市立図書館の管理運営についてご意見を賜る貴重な機会だと私たちは認識している。本館はもちろんのこと加茂町図書館、勝北、久米、さらには自動車文庫の運営も含めて忌憚のないご意見をいただきたい。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 委嘱状交付 （省略）

4. 自己紹介 （省略）

5. 議事

（1）視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

影山委員、神田委員、小谷委員を選出

（2）令和6年度津山市立図書館及び視聴覚ライブラリーの利用状況と事業報告について

事務局 令和6年度は、343日の開館日数。登録者数、貸出冊数、イベントの数字が少しマイナスとなっている。人口減少なども影響があるかもしれない。視聴覚ライブラリーについては、昨年15だった貸出が44に増えた。小学校の遠足時に利用していただいて子どもたちがたいへん喜んだと聞いている。令和6年7月から津山エリアデジタルライブラリーを開始した。これは、津山圏域定住自立圏の取組として行っているサービスである。貸出数9350点、所蔵数は3万余りである。また資料費が昨年度より500万円増額されて7年度は2500万円となり、資料の買い替えなどを進めているところである。

会 長 グラフで見ると若干減っているが、登録者数や貸出冊数の数字だけでなく、実はこういう面では良くなっている部分があるといったように評価の方法を変えてみることも考えてみてはどうだろうか。

事務局 登録者数については、10年以上使用していない登録を削除したために減少となった。実利用登録者数は9786人で市民の約10%の方が利用している。登録者数や利用者数に一喜一憂しないような利用活動もしていきたい。

(3) 令和7年度津山市立図書館主要事業について

事務局 令和7年度の課題

1. 幅広い知識・情報の提供
2. 学校図書館との連携と支援
3. 子どもの読書と子育て支援の推進
4. 地域支援サービスの充実
5. 津山圏域定住自立圏図書館事業の推進

今年度は資料費が500万円増えているのでサービスの向上に引き続き務めていきたい。

委員 地域支援サービスの講演会や各種セミナーの告知はどのようにしているか。

事務局 広報津山、津山市のホームページ、公式LINE、図書館のフェイスブック、公式LINEで広報している。防災無線、FM津山で放送することもある。

委員 1年間にどのくらい市民からのリクエストがあるか、またどのくらい消化できているか。

事務局 リクエストは年間に77993件あり、その中で他の図書館から借りたものが3129冊なので、残りの約74000件は自館でまかなっている。

委員 図書館として揃えたい本もある中で、年度末になるとリクエストがあっても購入できないといったことはないか。

事務局 年度末だからリクエストを受けられないということにならないよう調整している。

事務局 今年度は資料費が500万円増額になっているので、できるだけ皆様のリクエストにこたえられるように頑張っていく。

委員 維持管理・改修など施設管理もたいへんだと思うが、建物について何か予定があるか。

事務局 本館も地区館も建築後20年以上が経過して老朽化しているところもある。地区館では空調設備や自動ドア、照明設備が古くなっている。本館もAVコーナーや視聴覚室の機器が老朽化しているのでこれから予算化していかなければいけないところである。自動車文庫も買い替えの時期がきていると感じている。

委員 施設があってはじめて運営できるので、ぜひ計画的に進めてほしい。

事務局 これから修繕計画も立てて計画的に修繕していきたい。

委員 加茂町図書館も照明が暗くなっている。

事務局 予算のことなので確約はできないが、照明設備の更新もしていきたい。

委員 施設について、今の段階でどのくらいの（改修の）計画があるのか。

事務局 図書館の改修計画は今は立てられておらず、空調が壊れたら直すというふうに追いかけている状態なので、今後はそれに対応すべく、少しずつ計画的に対応できないか考え始めているところだ。

委員 将来的に本館は大丈夫としても地区館について、建替えてでも残す覚悟で進めると理解していいのか、状況次第ではわからないということか。

事務局 施設の再編方針を市役所全体で考え、議論している最中。生涯学習としては、どこであっても図書館機能は残したいと考えている。その意見をどこまで汲んでもらえるかわからない、図書館の規模が縮小されるかもわからないが、機能自体は残し

ていきたい。

委員 地域の分館に関わる委員から若干不安な雰囲気が出ているので、何か安心できる答えが欲しいが、気持ちとしては図書館機能は残したいという答えを聞くことができたので、そうなるよう期待する。

事務局 集約や複合化といったことが今後出てくると思うが、機能的には落としたくない。どうやったら機能的にも変わらないように、住民の皆さんがより楽しめるような、より行きやすいような図書館にできないか、皆さんからご意見をいただきたい。

委員 資料費が500万も増えたことについて、何かこういうことに力を入れていきたいという柱があるのか。

事務局 津山市の市民一人あたりの予算額が元々少なかったということもあって配慮していただいたと思っている。

委員 小学校の教科書が変わり、調べ学習が本当にたいへんになっている。なるべく自校で賄えるようにしているが、賄いきれず公立図書館や中学校にお願いして借りている現状なので、予算が増えた分調べ学習の本も充実させていただけるとありがたい。

事務局 了解した。

委員 調べ学習（コンクール）について、気になっている。図書館の本を上手にを使って調べるということで、研究と同時に図書館の利用方法とか本の読み方を学んでもらうという意図があって始まったと思っているが、図書館とは関係ないところで研究して成果だけ出てくる事例も多いように見受けられる。本来の趣旨からいうと、もう少し図書館に誘導して、いろんな文献できちっと調べて整理をして、図書館の利用とか本の読み方の指導に続けたほうがよいのではないか。

事務局 図書館の本をある程度は使っているが、今はインターネットで調べる子も多い。図書館の本を使ったものということで参考資料は書いてもらっている。

（応募は）増えている。最初に説明会をして、その後に博物館などに行って勉強会などもしている。

委員 もう少し指導体制をきちんとして、最初だけでなく、研究の仕方をちゃんと指導するような場が何回かあって、子どもの能力を信じて研究的なレベルを上げてあげるものができないか。

事務局 相談会も以前はしていたが、参加者が少なくなり個別に家でやっているようだ。もっと調査研究ができる体制を考えていけたらよいと思う。

委員 （小学校）現場では、調べ学習の方法の指導をしてはいるが、子どもたちが本当に理解して正しくできているかはわからない。図書館で教えてもらえるというアピールをもっと強めていくとよい。1から教えてもらえるような講座があると、それがきっかけで世界が広がっていくかもしれない。

委員 学校の中でも調べるとか研究するというのはすごく大事にされていて、一斉に同じものを教え込むのではないところに転換されているが、一斉授業という枠組みの中で調べるときに、やはり資料数は限られ、いちばん簡単なのはインターネット。一人一台端末があるので、それを使って調べればそれらしい情報が手に入るので、子どもたちが悪いわけではないが、安易な方向に流れていく実態はあるようだ。夏休みの課題の中で、じっくり時間をかけて自分が調べたいことを探求していくことを経験させてみるのは大事なこと。調べる学習（コンクール）が、本当に狙ったよう

な形のものになっているのか反省するところがある。仕掛けというか、どういうことをすれば子どもたちをそっちに導いていけるかを考えても良いのでは。

事務局 今年の応募作品はこれから届くが、それも見ながら来年に向けていろいろ考えていきたい。

委員 非常に負担のかかることなので図書館だけで抱え込まず、いろんな方に助けてもらって、どういうふうに助っ人を頼むかというところを工夫すればよいのではないか。

委員 津山エリアデジタルライブラリーを学校で利用しようと思ったら、カードを持って来ないと授業では使えないということか。

事務局 貸出カードを作っていれば、タブレットの中にアプリが入っているので、貸出券番号とパスワードで使うことができる。

委員 津山エリアに真庭市が入っていないのはなぜか。

事務局 津山圏域定住自立圏の枠組みの中に真庭市が入っていないためである。

(4) 図書館の運営について

委員 図書館に来るとお薦め本のポップがあったり、特別展示があったりして、自分の想定以外のものに出会える。新しい世界に触れられることが図書館に来ることの魅力。これからも（図書の）展示など頑張ってください。また展示コーナーで、地域の文化の振興のために文化的な作品展示をしたり、来館者が新しいことに触れられるようなことは可能か。展示コーナーの活用方法を紹介してほしい。

事務局 現在の展示コーナーは図書館がするもの、市役所の各課と連携したもの、中国四国農政局さん等と共催したものなどである。団体の方とも連携したり共催したりして展示をすることは可能と思うので、今後考えていきたい。

委員 保育園の立場から、子どもたちに絵本に触れてもらいたいと思い日々の保育の中で絵本を活用している。月刊絵本を購入してもらったり、貸出用絵本を用意したりしたりして家庭でも読んでもらえればと願っているが、忙しい親御さんが多く、若い方の絵本離れも気になる。どうすれば保護者の方にもっと絵本を活用してもらえのだろうか。図書館のおはなし会には大勢（の参加が）あるか。

事務局 小さい子の絵本の時間を毎週水曜日に行っている。乳児検診時にこの行事のPRをしたところ参加者が増えた。第二水曜日は、童歌の先生をお呼びして絵本とのコラボレーション企画を行っている。童歌は赤ちゃんもお母さんも嬉しいもので、小さいころから絵本に触れるきっかけづくりのひとつとしてとても良いと思う。

委員 子育て講演会で、子どもが3年生になるまでは読み聞かせを毎日しなさいと言われてたので、毎晩読み聞かせをした。そうすると上の子は3年生を待たずに自分で本を読み始めて弟たちが聞くようになった。忙しいだろうが、（絵本の読み聞かせは）親として子育ての上で大事なことだと思う。

委員 （図書館行事で）「本を借りてプレゼント」とあるが、何をプレゼントしたのか。

事務局 塗り絵とか雑誌の付録とか、しおりとかそういったもの。値の張るようなものではなく、手作りのものなどでも喜んでもらえる。

委員 対象の年齢は？

事務局 小学生くらいまでである。

(5) その他

委員 勝北図書館の前の工事はいつ終わるのか、何の工事をしているのか。

事務局 担当部署に確認する。(確認したところ、ひとまず工事は終了し、人は通行可能だが、車両については引き続き通行不可。今後本格的な修理となるが、予定はたっていないとのこと。)

委員 勝北図書館のカーテンが閉まっているために閉館しているように見えるのだが。

事務局 猛暑への対策として直射日光が強くあたる部分に遮光カーテンを設置したが、開館しているとわかるよう、午前中はカーテンを開けるようにする。

6. その他

事務局 津山市立図書館に公式LINEができた。貸出や予約も簡単にできるので、委員の皆さんもぜひ使ってほしい。

7. 閉会

副会長 図書館というものを知の拠点ととらえてもいいし、町おこしの中心に図書館を据えて市民の交流の場とするという新聞記事もある。また学校に行きづらい子の逃げ場ととらえてもよい。いろいろな意味で図書館を応援していきたい。